

## 平成23年度 発掘調査速報展

### あぶらでん いせき 油伝（1）遺跡

所在地：蒔苗字油伝

時代：平安時代、室町～戦国時代

調査期間：平成23年5月23日～12月16日

調査面積：827㎡

調査原因：市道整備

油伝（1）遺跡は、<sup>うしろながねがわきがん</sup>後長根川左岸の<sup>びこうち</sup>微高地上に広がる遺跡です。<sup>しどうまかなえよこまちせん</sup>市道蒔苗横町線整備にともない、平成22年度から発掘調査を継続しています。

調査の結果、<sup>へいあんじだい</sup>平安時代の<sup>こんせき</sup>ムラの<sup>むろまち</sup>痕跡と、<sup>せんごくじだい</sup>室町～<sup>やかたあと</sup>戦国時代の<sup>いこう</sup>有力者の<sup>ちゆうちく</sup>館跡と考えられる<sup>せい</sup>遺構が見つかりました。<sup>さんじゅうぼりあと</sup>注目される成果は、<sup>せいちそう</sup>三重堀跡と<sup>とうかんかく</sup>整地層の発見です。三重堀跡は、1本の幅が約6m、深さが約2mの大規模な堀を、等間隔で平行に3本配置したものです。三重堀跡の北側からは、<sup>ていねい</sup>丁寧に整地された土層が確認されており、<sup>せい</sup>周辺に<sup>せい</sup>建物跡の存在が予想されます。堀跡の<sup>けいだい</sup>形態や<sup>しゅうつどいぶつ</sup>周辺の出土遺物から、これらの遺構は15～16世紀に<sup>きのう</sup>機能した<sup>せい</sup>館跡の一部である可能性があります。南西約1.4kmには、<sup>おおうら</sup>大浦（<sup>つがる</sup>津軽）<sup>たゆのぶ</sup>為信が<sup>きよしゅう</sup>居城とした「<sup>おおうらしゅうあと</sup>大浦城跡」が位置することから、この城に関係した有力者が<sup>きよしゅう</sup>居住していたのかもしれませんが。



三重堀跡調査風景

### しせきつがる ししるあと ほりこしじょうあと 史跡津軽氏城跡 堀越城跡

所在地：堀越字柏田ほか

時代：戦国時代～江戸時代初め

調査期間：（国道拡幅に伴う調査）

平成23年5月23日～11月10日

（史跡整備に伴う調査）

同年10月31日～11月25日

調査面積：（国道拡幅に伴う調査）1,171㎡

（史跡整備に伴う調査）590㎡

調査原因：国道拡幅・史跡公園整備

堀越城は、<sup>へいやぶ</sup>弘前市南部の<sup>つ</sup>平野部に位置し、<sup>がるためのぶ</sup>津軽<sup>おおうらしゅう</sup>為信が大浦城から<sup>ぶんろく</sup>移転した文禄3年（1594）から、<sup>のぶひら</sup>二代信板が<sup>ちくじょう</sup>弘前城を<sup>けいちょう</sup>築城した慶長16年（1611）までの17年間、<sup>きよしゅう</sup>津軽氏の<sup>くにしていしせき</sup>居城となりました。昭和60年には国指定史跡となり、市では現在、市民の皆様への公開を目指して、<sup>きよしゅう</sup>史跡公園整備事業を進めています。

平成23年度は、<sup>ほんまる</sup>本丸東西の<sup>こぐち</sup>出入口（<sup>つらぬ</sup>虎口）で整備事業に伴う調査を実施し、<sup>か</sup>門や<sup>か</sup>土橋の跡を確認しました。また、平成21～23年度には、<sup>つらぬ</sup>史跡を<sup>か</sup>貫く<sup>か</sup>国道7号の<sup>か</sup>拡幅工事に伴う調査も実施しています。



本丸西側虎口の調査風景

## ちょうしょうじ 長勝寺

所在地：西茂森1丁目

時代：平安時代、江戸時代

調査期間：平成23年6月14日～6月29日・  
11月14日～12月7日

調査面積：205.23㎡

調査原因：防災設備設置

長勝寺構は、高岡城（後の弘前城）築城後に、城の防衛を目的に集めた曹洞宗寺院、土塁及び濠で構成されます。曹洞宗寺院の僧祿所としての役割を果たした長勝寺は、江戸時代に建てられた重要文化財の三門、庫裏、本堂、御影堂、津軽家霊屋（5棟）などが今日まで良好に残り、当時の荘厳な風景を醸し出しています。

発掘調査は、重要文化財を火災から守る初期消火のための防災設備設置に伴い行われ、調査の結果、江戸時代に造られた土塁跡や建物跡、昭和21年に開校した太平中学校（後の太平高校）の礎石跡と共に、平安時代の土師器や江戸時代の陶磁器などが出土しました。

長勝寺構では、他にも照源寺や清安寺から江戸時代の陶磁器などが出土し、当時の痕跡が確認されています。



## にょらいせいしきりちょうばあど 如来瀬石切丁場跡

所在地：如来瀬字山田

時代：近世（江戸時代）

調査期間：平成23年8月16日～12月19日

調査面積：約10,000㎡

調査原因：弘前城本丸石垣修理事業

如来瀬石切丁場跡は、岩木川より北側の斜面部に位置する安山岩の産地だった所です。弘前城からは、南西に約6kmの距離です。

如来瀬山や如来瀬村が弘前藩の日記に登場

するのは、貞享2年（1685）からであり、元禄7年（1694）以降は未完成だった本丸東面中央の石垣や旧天守台（本丸末申櫓台）の修築のため、大量の石材が如来瀬から供給されたと記録されています。

調査の前は、如来瀬石切丁場跡には石の数が多くないと考えられていましたが、落ち葉や雑草を取り除くと、広い範囲から多数の石が露出しました。これらの石の中には、矢と呼ばれる鉄の楔によって石が割られた矢穴が残っているものがあり、最大では3mを超える岩石もあります。これらの石材を調べることにより、元禄期の石材調達のプロセスが徐々に明らかになるでしょう。

【展示に関する問い合わせ先】

〒036-1393 弘前市大字賀田一丁目1-1 岩木庁舎 弘前市教育委員会 文化財保護課埋蔵文化財係  
Tel 0172-82-1642（直通） 内線 768・381

